

とまちゃん通信

九月定例議会

ICT活用教育を進める

ウィズコロナ時代の生活に向けた取り組み

9月3日から10月2日まで定例県議会が開会されました。未だコロナ禍にある議会は、これまで通り消毒、マスク、三密回避の対策をとったうえでの開会でした。知事から提案のあった、コロナ対策108億円の補正を含む一般会計補正予算案など予算案18件、法令に基づく条例改正など条例案5件、専決処分事件の報告及び承認など一般事件案15件、議員提出「国土強靱化、老朽化対策を含む地方の社会資本整備の推進を求める意見書」1件は、すべて可決し終了しました。なお、提案のあった令和元年度決算認定については、今後も決算特別委員会で審議し、11月定例議会にて決する予定です。角智子の一問一答形式での一般質問は、次の通りです。

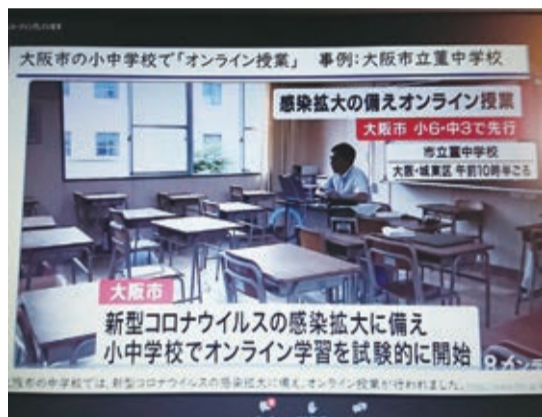
未来を拓く子どものためのICT活用教育の充実を

県内の小中学校、高等学校、特別支援学校のICT端末の整備状況と今後の予定を聞く。

教育長 県内の公立小中学校の1人1台端末整備は、今年度末には16市町村で整備済みとなり、残りの市町村も順次整備される予定。

県立高校は、未所有者への貸出用端末及び通信環境がない家庭等への貸出用WiFi機器は7月中旬に整備を終え、ICT活用教育を実践研究するモデル授業を進めている県立高校3校に端末を整備している。今後、このICTモデル校授業での成果と課題を検証しながら、1人1台端末の導入と効果的な活用を検討する。

特別支援学校では、小中学部での1人1台端末の整備に加え、医療的ケアが必要な児童生徒を対象とした通信環境がない家庭などへの貸出用端末及びWiFi機器、高等部の端末を持っていない生徒への貸出用端末は、8月中旬に



全国地方議員オンラインセミナーから

整備を終えた。高等部生徒の1人1台端末の整備は、今後検討する。

教育長 全ての教員が、ICTに関する研修を受講できるのか。

教育長 今年度の研修は、県立高校では6月にオンライン授業の指導方法に係る研修を、ウェブ会議システムを活用して全教員が各学校で受講できる形で実施した。特別支援学校では、9月の下旬に各学校の担当者を集めて実施する予定。小中学校では、県のホームページで紹介するICTを活用した指導方法等の動画や教育センターの各種研修、出前講座などが利用できる。また、学校からの要請に応じて、指導主事による訪問指導も行っている。

今年度の実績も踏まえ、来年度から全校種を通じて教員が学校で双方向オンラインによる研修に参加できる体制を整備していきたい。

専任職員の配置やチーム教育の実施など、学校全体で地域教育を進めるべきではないか。

教育長 県立学校では、ICT活用教育の基礎的な部分の研修を全教員に対して実施。特別支援学校でも実施予定。機器トラブルなどが生じた際にはリモートで相談できる体制を整える。

全国的に教育の場でのICT活用が進み、扱いやすい機器やソフトウェアが普及していることから、ICT教育担当の専任職員の配置は、現時点では考えていない。なお、学校のICT環境整備の設計や使用マニュアルの作成など、初期対応を行うGIGAスクールサポーターの導入を計画している市町村もある。

ICT活用教育を進めるために、地域のIT企業や大学などの専門家の知見を借りながら、教育センターの研修とも連



一問一答による質問

動させ、各学校が校内研修やOJTなどに取り組んでいけるよう努めたい。

ICTの活用により障がいがある子どもが学習に参加できる環境が拡充していくことが期待されるが、いかがか。

教育長 障がいのある子どもや教室に入りにくい子どもなどに対して、ICT機器を適切に活用することは、教育上有効だと考えている。今後、個々の障がいや様々な特性に応じた指導をするために、必要なICT機器やソフトウェアを整備する。子どもの実態に応じてICTを活用できるための教員研修を行うこと、ICTを活用して支援が必要な子どもの成長や自立につながるための授業改善を行うよう、市町村教育委員会と一緒に努めていく。

ICT活用によって懸念される様々な影響への対応についていかがお考えか。

教育長 子どもたちの電子メディアへの接触時間は増加傾向にあり、ネット依存や睡眠不足による生活習慣の乱れなど様々な健康課題が懸念される。本年3月に策定した学校保健計画の手引の中で、健康とメ

ディアを課題の一つに位置づけ、取組を進めている。小学校ではルールやマナーを守ることや相手の気持ちを考え、行動することなどを繰り返して学習したり、中学校では自分が発信した情報は誰でも見ることができるといふインターネットの特性について学習したり、高校では個人のプライバシーや著作権、情報の管理、責任など情報モラルや情報セキュリティについて学習するなど、発達段階に応じた指導をしている。このような取組を通して、子どもたちの健康被害の防止や情報モラルが身につくよう指導していく。

コロナ禍のジェンダー格差

島根県立男女共同参画センターでは、コロナ禍での女性への影響調査をされたが、その調査結果を県としてどう受け止め、取り組みをされるのか。

女性活躍推進統括監 コロナ禍の中、女性がどのような影響を受け、どのような困難や不安を抱えているかを急ぎ調査されたもの。性別に関わる課題や求められる支援について丁寧に見ていく必要がある。

県では、女性を対象とした就職相談窓口を設置しており、この窓口をさらに周知し、本人の希望や適性、スキルなどに応じた就職やキャリアアップを支援していく。新婚夫婦向けの家事手帳や男性向けの育児手帳など啓発資料を作成し、男性の家事、育児への積極的な参画を促進していく。また、子育て

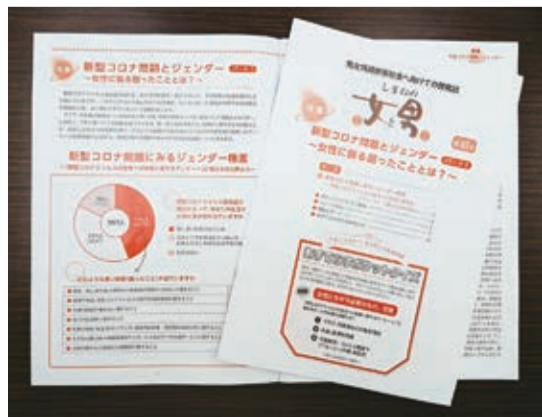
しやすい柔軟な働き方ができる職場環境づくりに取り組んだ事業者等に対して奨励金を支給し、支援していく。

コロナ禍におけるNPO活動等への支援

コロナ禍で活動が停止しているNPO団体は運営に苦慮しているが、どのような支援をされているのか。

環境生活部長 6月補正予算で、NPOの活動の充実支援や事業継続のために持続可能な社会貢献活動支援事業を創設した。6月から7月に募集を行い、25団体からの申請全てを採択し、交付を決定した。その後、2次募集を行い、28団体から申請があり、9月末に審査委員会を開催し、採択事業を決定する予定。

企業や個人の寄附をいたたく「しまね社会貢献基金」では、新型コロナウイルス感染症対応のため寄附の募集を5月から開始し、現時点で12件、349万円余の寄附が寄せられている。この寄附金を活用し募集したところ、6団体から申請があり、申請団体全て申請しており、事業を採択した。さらに、2次募集を行い、1件の申請があり、9月末に審査会を開催し、採択の可否を決定する予定。



県立男女共同参画センター情報誌

とまちゃん通信

全国女性都道府県議会議員研修会in島根 島根県の取り組みを全国の議員に紹介 リスクを抑えて開催

8月4～6日の3日間、女性都道府県議会議員研修会を島根県で開催しました。新型コロナウイルス感染症が広がる中で、開催地として随分開催について議論しましたが、当時、島根県では4、5月以来、感染者が出ていないという状況で実行しました。

しかし、都道府県議会によってはお外出を控えているところもあり、オンラインでの参加も可能な形で開催しました。7月にオンラインの事前調整のために、役員も来県され、通信状態などチェックして、研修会の運営などについて打ち合わせしました。

過疎を逆手にする

初日は、岩本悠島根県教育魅力化特命官による「学校を核とした地方創生プロジェクト」～高校魅力化×地域活性化」と、持続可能な地域社会総合研究所の藤山浩所長による「地元を創り直す時代」～過疎が始まった中国山地から持続可能な未来に先着」の二つの講演を聴き



オンライン参加も含めて全員集合



講師の藤山所長を囲んで

会派研修会

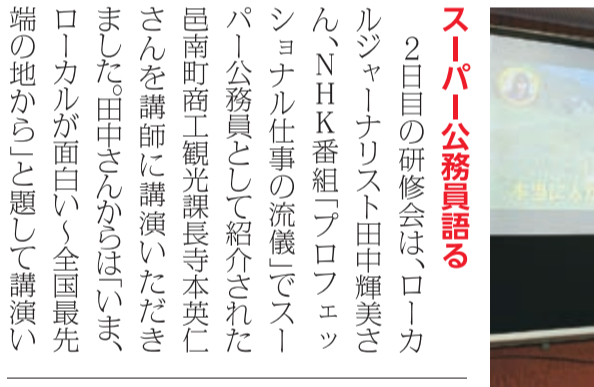
県政の課題について識者に学ぶ

会派民主県民クラブでは、議会ごとに関係者や識者を招き、その時々々の県政課題について、問題点や方向性を明らかにして、今後の政策論議に活かすための研修会を開いています。

6月議会では、新型コロナウイルス感染症について島根大学医学部付属病院の磯部威先生を招き講義を受けました。

また、9月議会では、島根県立大学の新田典利副理事長はじめ大学関係者の皆さんを招き、学部再編についてお聴きしました。

6月時点では新型コロナウイルス感染症についてわ



講師の藤山所長を囲んで

スーパー公務員語る

2日目の研修会は、ローカルジャーナリスト田中輝美さん、NHK番組「プロフェッショナル仕事の流儀」でスーパー公務員として紹介された邑南町商工観光課長寺本英仁さんを講師に講演いただきました。田中さんからは「いまローカルが面白い」全国最先端の地から」と題して講演い



スーパー公務員寺本さんの講義

ただきました。また、寺本さんからは、テレビで放映されたビデオなどをもとに、町の活性化の取り組みについて講演いただきました。講演は12時半過ぎまで時間いっぱい、皆さんからの質問に答えながらの充実した研修会となりました。



陽岐島前の島々を望む

松江城を視察し、隠岐の海士町に向かいました。島にあるものを活かす。最終日は、海士町内の隠岐国学習センター、島前高校、隠岐神社、図書館などの施設を回りながら、それぞれの取り組みについて、大江和彦町長はじめ役場の職員、各施設の担当者の皆さんから説明いただきました。島まるごと図書館の取り組みも進化しており、いつ

来ても新たな学びがあり、ますます島にあるものを大切に、それを活かして、子どもたち

新しい政治を地方から

議員になって以来、毎月1回の割合で開催されている女性のための政治スクールには、これまでで参加していましたが、このコロナ禍、参加型のスクールではありませんが、オンラインも可能な形にして開催されました。

8月22日に開かれたスクールの講師は、明石市長の泉房穂さん。暴言で市長を辞職されたが、市民の声に押しされ再び市長に当選され、子どものため、弱い立場の人のためにリーダーシップを発揮して



オンラインによる明石市長の講演

られます。初めて、お話を聞く機会を得ましたが、市長としての熱き思いをいかに発揮しておられる情熱厚い人という印象を受けました。

市長職4期の間に、子ども支援を中心に高齢者や障がい者、女性など弱い立場にある人々への支援策を充実させてきたこと、そして、このコロナ禍、素早い対応で国に先んじて支援策を講じてこられたことに感心するとともに、その政策の推進に人材採用、配置が大きく影響しているというところがわかりました。児童相談所の人員を国基準の倍に配置するなど、適材適所をい

かなく発揮することが打ち出した政策実行につながっています。

とてもいい講義を受ける機会を得たということに、オンラインの有効性を感じました。例年夏は調査に全国に出かけることが多いのですが、この夏は、オンラインセミナー参加の日々でした。



海士町の図書館事業について聴く